「金環皆既日食の中心食」

北原　巖男

内外諸情勢まことに厳しい中で幕開けした2023年も、早や4月を迎えようとしています。まさに脱兎のごとくの感を強くします。

ふるさと伊那市の皆さまには、新年度もお体にはくれぐれも留意され、ご自身のかけがえのない人生の折々のお花を、それぞれ現在進行形で咲かせて行って頂きたいと思います。

そんな皆さんに、特報（？？？）が日本と同じ“日いづる国”東ティモールからあります。東ティモールと言えば、伊那市の皆さまには、一昨年の東京オリンピックに際し同国のホストタウンとして、コロナ禍の中、最大限の感染防止措置を取りつつ同国選手団の事前合宿を大変温かく受け入れてくださいました。

その東ティモールで、本年4月20日に「金環皆既日食の中心食」が観測できるとのこと。皆既日食は、太陽と地球の間に月が入り、その陰で太陽が欠けたように見える現象ですが、21世紀中に起きる金環皆既日食は7回のみ。本年4月20日の後は、2031年11月14日・2049年11月25日・2050年5月20日・2067年12月6日の4回。しかも僅か1分程度しか続かないそうです。ちなみに4月20日は、1分16秒とのこと。うかうかしていたら見逃しかねません。

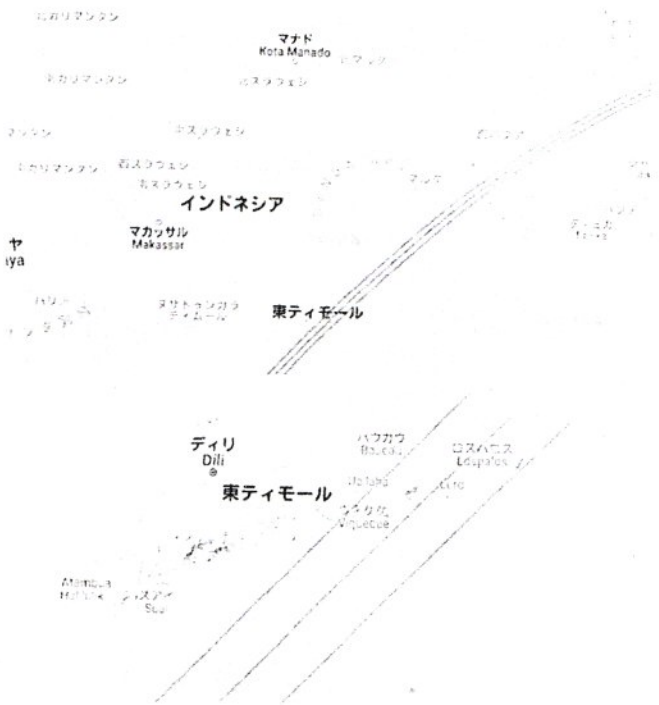
当日、日本でも南西諸島等で「部分食」を観ることは可能なようです。僕は、国立天文台に電話して聞いてみました。「日本で金環皆既日食の中心食を観測できるのはいつですか？」「少なくとも今後100年間は日本で中心食を観るは出来ません。1000年・2000年先については地軸の関係もあり、追求してみないと分かりません」

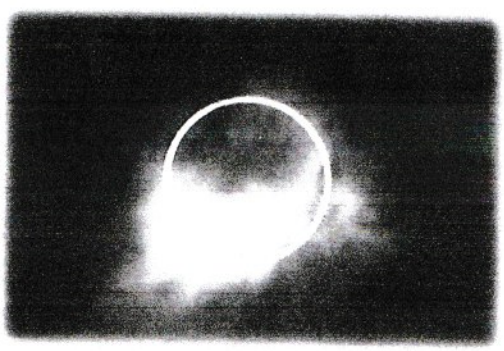
とてもそれまで待つことは出来ません。

伊那市の皆さま、「そうだ　東ティモール　行こう！」してみませんか？金環皆既日食の中心食の目撃者となる旅、アジアで一番新しい独立国・東ティモール発見の旅、国づくりに取り組んでいる東ティモールの皆さんとの交流の旅です。同時に、久しぶりのふるさと伊那市再発見の旅にもなるかもしれません。

日食グラスは必携。絶対に裸眼で見てはなりません。他方、この時期、東ティモールは雨期の真っ只中であり、また前述のように1分16秒という至短時間の勝負ですので、リスクは否定できません。

が……。



2023年4月20日金環皆既日食中心食
（国立天文台ホームページより）

（日本東ティモール協会会長）